

事業実施報告書

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	5学年 9名 6学年 4名 計13名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間、道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	「車椅子バスケット」に触れる機会を通して、ハンディキャップを乗り越えてたくましく生きる人から学び、自分の将来をよりよくするための意識を高めることができる。
5 取組内容	○ 全校集会（7月） パラリンピックの聖火リレートーチに触れ、オリンピック・パラリンピックへの興味と関心を高めた。  ○ 道徳（11月） パラリンピックに関わる人々の話に触れ、困難に負けずに挑戦する人について考えを深めた。 

	○ 総合的な学習の時間（１１月） 「講演・体験活動」 実施内容：車椅子バスケットから学ぼう   車椅子バスケットについて、実際に体験したり、講話を聴いたりして理解を深めた。車椅子バスケットの選手から、ハンディキャップを乗り越えていくたくましい生き方について学んだ。
6 主な成果	○ パラリンピックについての体験活動を通して、子ども達の興味関心が高まり、視野が広がった。 ○ パラリンピアンからの講話を聞いたり、パラリンピックの競技種目である車椅子バスケットを体験したりすることで、困難に負けずに前向きに生きる大切さを学んだ。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	○ 山間部の小規模校であるので、一人一人が実際に体験できる活動をできるだけ盛り込めるよう、工夫した。（トーチに触れたり、車椅子で競技したりするなど）
8 主な課題等	○ トーチは、全校生が触れることができたが、車椅子バスケットの授業は、体験できる学年が限られてしまった。授業の持ち方、活動のさせ方を工夫できるとよかった。
9 来年度以降の実施予定	○ 障がいがある人も含めて、いろいろな人々がともに生活していることに気付くことができた。視野を広げ、身の回りの物事について考えていく力を、次年度取り組むSDGsの学習へとつなげていきたい。